

ONKYO.

A decorative graphic consisting of several overlapping, wavy blue lines that flow from left to right across the middle of the page. The lines vary in opacity and color, creating a sense of movement and depth.

第3四半期
～2018年3月期 第3四半期決算ハイライト～

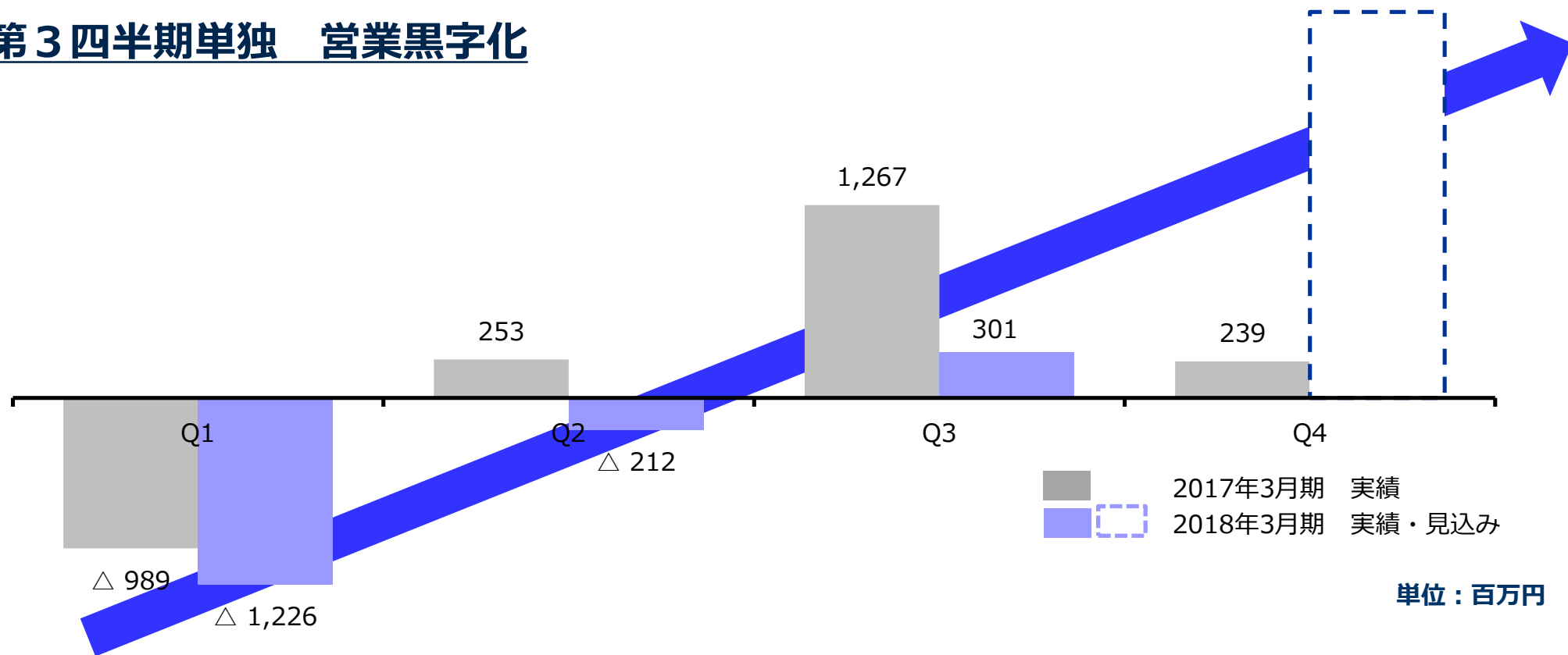
2018/2/9
オンキヨー株式会社

2018年3月期 第3四半期 トピックス

- AI対応スマートスピーカーの国内・海外発売開始
 - AI/IoT時代に対応した「進化するエコシステム」構築へ積極的な開発を継続
 - ホームAV事業においては、不採算モデルの戦略的な見直しによりセグメント黒字を継続中
 - 新カテゴリー製品の投入・海外展開によるデジタルライフ事業の売上拡大
 - OEM事業を中心に、スピーカーの搭載、音質監修などオーディオ業界以外との協業も積極的に展開
「Sound by Onkyo」、「Powered by Onkyo」などを付した製品を次々発表
 - エクイティファイナンスによる財務基盤の強化
- ⇒ 財務健全性を向上させつつ、日々進歩するAI関連の開発をタイムリーに続行
経営資源の選択と集中で通期の利益確保を目指す

2018年3月期 営業損益 推移について

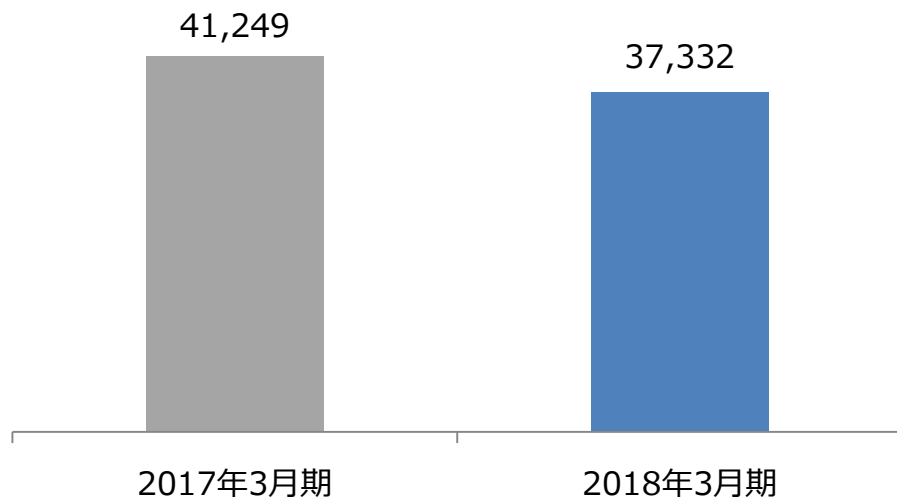
第3四半期単独 営業黒字化



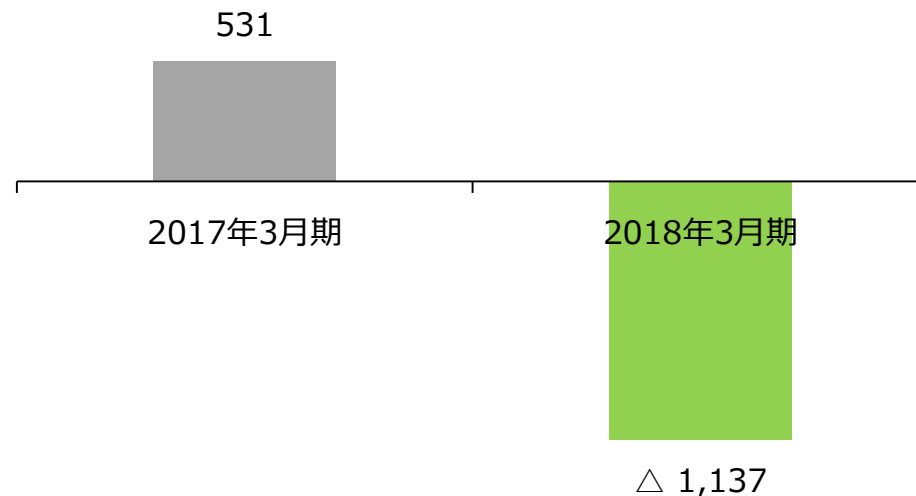
12月からのAI対応スマートスピーカーの本格発売に伴うAI関連製品の販売やデジタルライフの新カテゴリー製品の海外展開による利益を見込み、営業損益は当初の業績予想通り通期で14億円の利益とする

第3四半期の概況 累計

第3四半期 売上高



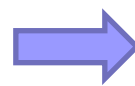
第3四半期 営業損益



単位：百万円

減収減益の主な要因

- ・ 国内を中心に既存オーディオ市場の厳しさ継続
- ・ 不採算モデルの販売見直しによる機種絞り込み
- ・ AI対応製品の開発継続による投資
- ・ 新製品の市場導入・プロモーション費用の増加

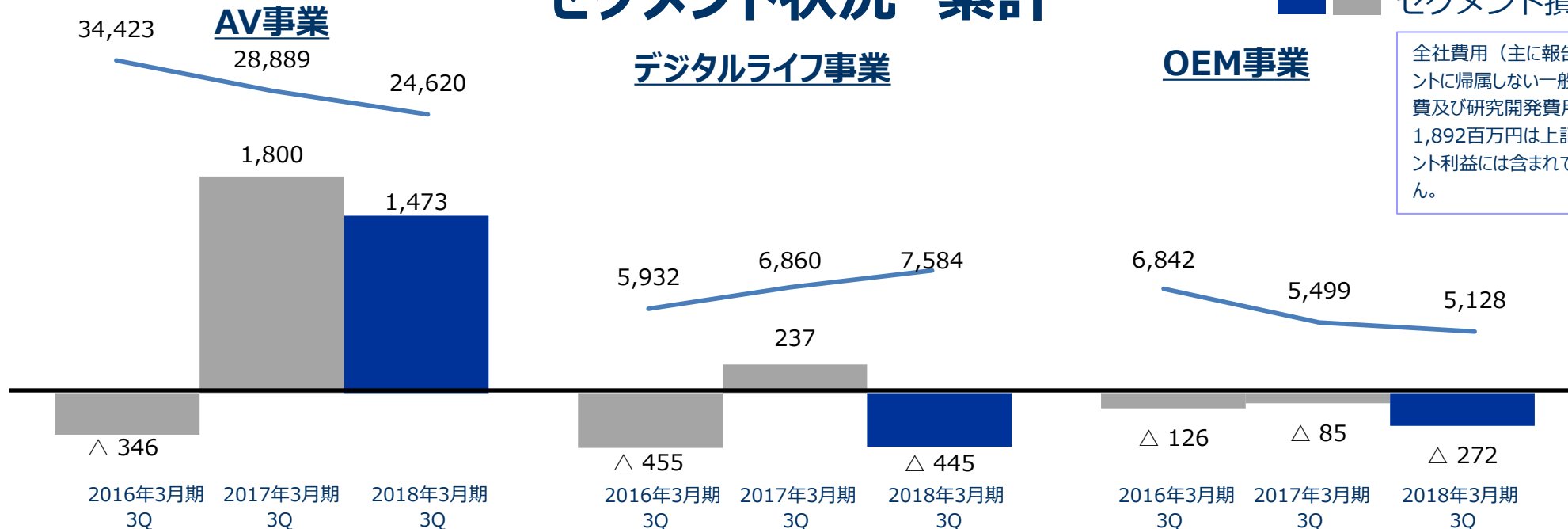


既存事業の見直しを進める一方で、今後成長の見込めるAI関連分野への投資を継続

経営資源の選択と集中

セグメント状況 累計

単位：百万円
 売上高
 セグメント損益



全社費用（主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費用）1,892百万円は上記セグメント利益には含まれておりません。

■ AV事業

不採算モデルの販売見直しにより売上は減少。
 損益は、統合によるシナジー効果、経営の効率化により二期連続黒字を確保。

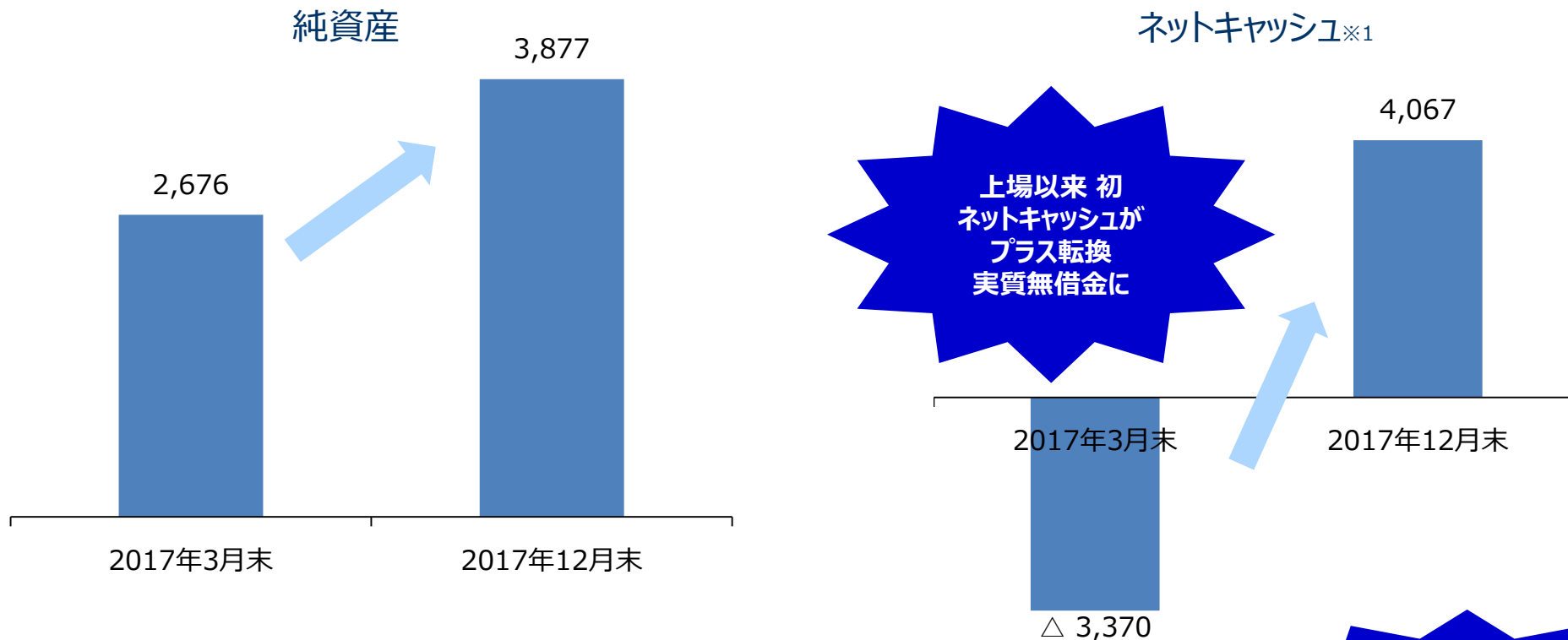
■ デジタルライフ事業

iPhoneに対応したノイズキャンセリングイヤホンRAYZの海外本格展開や新製品のスポーツイヤホン等の市場投入により二期連続増収。ただし、AI関連製品の研究開発費や市場導入費用の発生により減益。

■ OEM事業

インド合併会社の売上増、車載用スピーカー全般の販売堅調、さらに「Sound by Onkyo」等のブランドを生かした展開も好調であったが、環境関連製品の販売減、インド合併会社の立ち上げ関連費用発生、加振器（Vibtone）の開発強化により減収減益。

第3四半期 財務基盤の強化



◆エクイティファイナンスによる株主資本の増加
2017年10月 第4回CB転換（10億円）

◆調達した資金による借入金の削減を実施

→ 上場以来初めてネットキャッシュがマイナスからプラスへ転じ、
実質無借金に※2

財務健全性
向上

※1 ネットキャッシュとは 現預金から短期借入金・新株予約権付社債・長期借入金の合計額を差し引いた額です。
※2 実質無借金とは、現預金が有利子負債（短期借入金・新株予約権付社債・長期借入金）を上回る状態を指します

成長に向けた取り組みについて

AI対応スマートスピーカー発売

AI対応スマートスピーカー 日米欧で販売開始

- Amazon Alexa、Google アシスタントそれぞれのAIエンジンに対応するラインアップを日米欧にて展開
- 日本ではG3、P3※を販売スタート

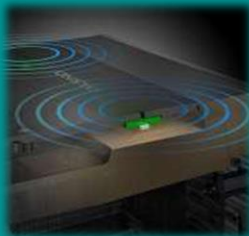


※amazon.co.jp のサイトでメールでの申し込みによる招待制にて発売中

音に関する技術開発も進展

- スマートスピーカー用
マイク振動抑制技術
を開発

※特許出願中



- スマートスピーカーにもつながるネットワークCDレシーバー
に独自開発パルス変換技術 3-state Bitstream※搭載

※特許取得済



ネットワークCDレシーバー
CR-N775

成長に向けた取り組みについて

AI関連の積極的な開発

新たな開発をCES※にて参考出品

独自のAI【Onkyo AI】

- お客様の多様なニーズに応えることができる、カスタマイズ可能な当社独自のAIシステム
- 時間・位置・ユーザー特性を組み合わせ、さまざまなサービスを提案、提供
- AIエンジンにはSoundHound社の対話型音声対応知能「Houndify」を活用
音声による、複数キーワードでの絞り込み検索が可能
- お客様がお好みのアシスタントの音声に設定可能な「Onkyo Voice」を搭載



Onkyo Voice イメージ図

Toshiba Communication AI
RECAIUS™

【AIスマートウェアラブル】



イメージ図

- 身に付けるだけ、話すだけで自動的にONとなる完全なハンズフリーを実現
- 機器からの音楽・音声と、周囲の音を両立させる新技術
- 独自AI「Onkyo AI」を搭載

※1月に米国ラスベガスで行われたコンシューマーエレクトロニクスショー

成長に向けた取り組みについて

AI関連の積極的な開発

新たな開発をCESにて参考出品

【Siriの効果を高めるiPhoneスピーカードック】

- iPhone からLightningコネクタ経由で音楽を再生しているときでも、遠くから‘Hey Siri’を認識するスピーカードックのコンセプトモデルを参考出品



インド スピーカー事業

合併事業 生産拡大中

- 生産ラインを増設し、生産能力を拡大、増える受注に対応中。



成長に向けた取り組みについて

ブランドコラボレーション戦略を推進

ブランドコラボレーション・加振器活用

- 当社スピーカーの搭載、音質監修などを提供、「Sound by Onkyo」、「Powered by Onkyo」等のロゴを、高い音質性能を証明するものとして製品や販促物等に明示

- ・富士通様 ノートPC
- ・シャープ様 TV
- ・東芝クライアントソリューション様 ノートPC
- ・東芝映像ソリューション様 TV
- ・富士通コネクテッドテクノロジーズ様 スマートフォン
- ・セイコーロック様 スピーカークロック
- ・アイワ様 TV など

家庭のいたるところにオンキヨーの技術が活かされている



- 加振器の利用方法を開発、従来のスピーカーでの課題を解決して新しい音の楽しみ方をご提案

- ・河合楽器製作所様 電子ピアノ、ハイブリッドピアノ
- ・タイガー魔法瓶様 炊飯ジャー
- ・加振器を用いたバスルームオーディオシステム

ONKYO®

本資料に記載されている業績や見込、将来に関する記述等は資料作成時点において入手可能な当社およびその関係会社の情報に基づいて予測し得る範囲内で当社が作成したものであります。これらの記述はリスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を保証いたしません。実際の業績は今後様々な要因により異なる結果となる可能性があります。本資料における第4四半期の見込値は、当該四半期累計期間値または通期業績見込値から前四半期累計期間値を差し引いて算出したものであるため、実際の第4四半期の値と誤差が生じている場合がありますが、その差額は百万円未満です。なお、本資料に関する全ての著作権その他の権利は当社に属します。